

広濟寺寺報

発行
浄土真宗本願寺派
広濟寺
〒933-0344
富山県高岡市笹川98
TEL(FAX)
0766-31-0096
Mail
kosaiji@hotmail.co.jp

刊創報寺濟広

親鸞聖人七百五十回大遠忌を

お迎えするにあたって

門信徒の皆様におかれましては、平素より宗門の護持、発展にご尽力頂きありがとうございます。

さてこの度、当広濟寺におきましては、「広濟寺寺報」と題しまして、ご門徒の皆様へ寺報を発行させていただくととなりました。

今、私たち浄土真宗本願寺派では、平成二十三年に勤まります親鸞聖人七百五十回大遠忌に向かって、着々と準備が進められております。最も大きな工事であった、平成十年より十年



もの年月にわたって進められていた御影堂平成大修復も無事完了し、この四月より、再びご門徒の皆様へ念仏道場としての力強い姿を見せていております。そして当広濟寺でもまた、蓮如上人五百回遠忌における第二期事業が本年春に

完了いたしました。本堂は震度五の地震にも耐え得る耐震補強

工事が行われ、また、善立寺跡は舗装され駐車場となりました。これで広濟寺

駐車場にはおよそ三十台は駐車できるスペースができたこととなります。お寺とは、仏様の教えを聞く場、皆様一人一人の場であり、このような事業が無事完了しましたことは大変有り難いことでもあります。

さて、このような中で、七百五十回大遠忌に向け、お寺の在り方自身も今改めて問われております。ご門徒の皆様にはお寺はどのようなうつつているのでしょうか？カルト宗教と呼ばれたある新興宗教の脱退者に対して「あなたが子供の頃からあなたの近くにあったはずのお寺はあなたにとって何だったのですか？」という質

問をしたという話があります。その方は「お寺は風景にしか過ぎなかつた」と答えたそう



です。毎日目にはしてはいたが、気にとまるでもなく、空気のような存在、自分には何の関わりもなく、思いもなかつた、ただ目につるだけの風景にしか過ぎなかつた、というものでした。本来のお寺の意義が全くその方に伝わっていなかつたということ。お寺とは、仏法薫る、心の

安らぎの場所であるはず。しかし、今そのことがいつの間にか現代人から薄らいできているのです。ご門徒の皆様と共にあったはずのお寺がいつの間にか遠いものとなつてしまつていくことは、当広濟寺においても例外ではありません。お寺でどんな行事が行われているのかすら伝えきれていないところが多分にあると思ひます。お寺より遠い土地に住まわれているご門徒の方々には尚更です。今、大遠忌に向け、改めてそのことを考えるなかで、皆様との距離を少しでも近づけたい、ご門徒の皆様と共に在るお寺にしていきたいという思いを強くいたしております。そこで、広濟寺としての活動を少しでも皆様にお伝えする媒体としてこの「広濟寺寺報」を刊しようという運びとなりました。

この寺報では、お寺で今どういふことが行われているかはもちろん、仏様の教えや仏事の身近なことに ついても伝えていければと思つております。発行は年四回程度を予定しております。仏法に触れていただく助縁となれば幸いです。



永代祠堂経法要が勤まりました 六月三日、四日

永代祠堂経法要が、先月三日、四日と広済寺本堂にて勤められました。御講師には、高岡市内島の教願寺御住職、岡西法英先生をお迎えし、両日、午前・午後の計四座、ご法話をいただきました。誰もが願われているんだ、阿弥陀様はどこまでも私のことを願いつけておられるんだということを、わかりやすくお聞かせ下さいました。永代経とは、亡き方々をはじめとした様々なご縁によつて仏様の教え(お経)に遭遇させていただいていることに感謝し、そしてそれを永代にわたつて伝えていくという願いのもとに勤まる法要です。はるか二千年以上も昔に、遠くインドで説かれた仏様の教えが、今の時代、この日本に生きる私に届いています。仏法を伝えてきてくださった先人方の思い、願いに思いを馳せながら、お念仏申させていただきますよう。

仏事について、是非こんなことを聞いてみたいというのはありませんか？紙面を使って答えさせていただきます。メール、電話、ファックスお待ちしております！

正

座が苦手という方、また正座をしてお参りするの

はちよつと・・・という方はおられませんか？最近はお寺のお参りも椅子に座つて・・・という方も多くなつてこられました。広済寺においても以前より椅子席が十九席用意してあつたのですが、もう少し増やして欲しいという声をいただき、先日新たにもう二十一席増やしました。今回増やしました椅子は以前のものより体に優しく、少し座り位置が高くなつております。これからも皆様が気楽にご法話を聞いていただけるような環境をつくっていきたく思います。お待ちしております。



お知らせ

二〇〇九年

黎明講座

七月三十一日(金)

午前五時半より

御講師

氷見組 法順寺

圓山 清師

八月一日(土)

午前五時半より

御講師

奈良組 光雲寺

久堀 勝敏 師

孟蘭盆会

八月十五日・十六日

午後二時より

秋季彼岸会

九月二十三日

午後二時より

新湊組 覚円寺 若院

青木 哲隆 師

住職コラム

この度「広済寺寺報」第一号が発刊されることは誠に喜ばしい限りです。

遠き古より広済寺は門信徒皆様のお寺であり、阿弥陀さまのお住まいです。皆様により温かく継承されてきました。

皆様の忌憚のないご意見で「寺報」を柔和に末永くお育て下さいますようお願い致します。

編集後記

京都より戻つて参りまして早一年が経とうとしております。今では随分富山の生活にも慣れて参りました。そんな中でようやく寺報の発刊となりましたが、まだまだ試行錯誤の状態です。もっとこんな風にしたら？など色々な声を寄せていただければ幸いです。これからの「広済寺寺報」をよろしくお願い致します。